

没者惣想文
字

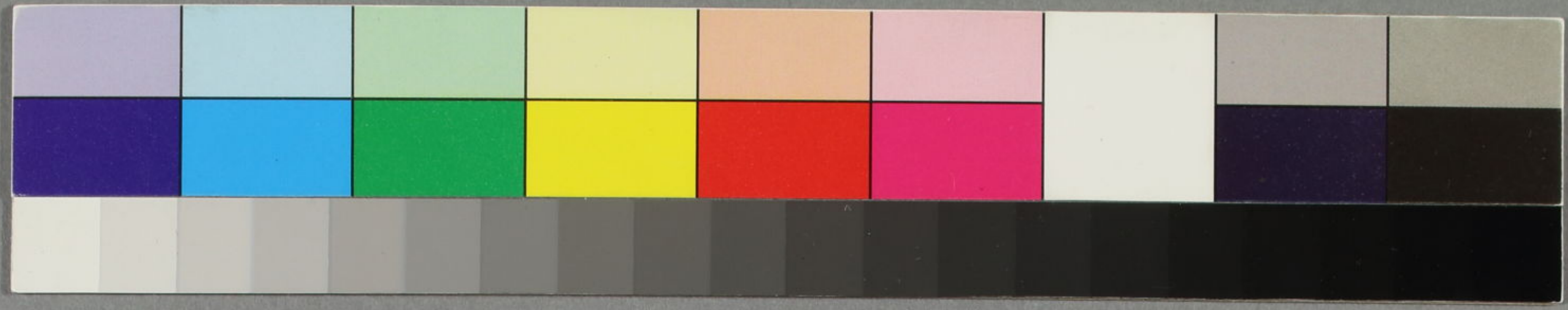
没者惣想文
大坂

没者懸想文
京

文字

特別
千13
3849
22





13
3849
22

22

彼者徳想文 藝亦定

系之卷目錄

文代の若水也

長由乃の於の月也

若くする正月也

さるなりとして清の

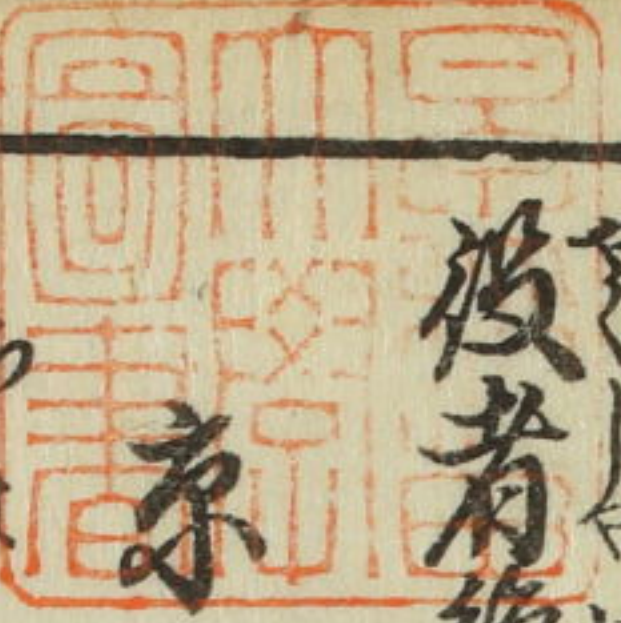
浪えの影入

さふ推さかすこの二光

かゝるまの喜下り

多由乃笑聲也

釋迦の教



あつきの強いあまえり

大燭燭の心抱

とりまきこひの抱

書たてあまの核

まらふか色毛纏

磨蘇酒のあま

わたりまきここの富

つと出りくまの巻

あてと月と夜中

小僕もいそと

整昌ワイ

系三系系波若同派

各代市袋屋梅之忠

▲立波之部

極書 中村十

ひ夜上下大小後

上書 杉山良三

肉和も小一巻の乃具

上書 深松七三

あし飛乃及

上書 中村正

まの桐子のうの川

上書 津打門三

初がのめく

上書 小池川

えの後のひ小

上書 今村七三

け人のとく

▲歌波之部
上上音 深川氏云傍

上上音 山中七彦
のほらあまきとりの琴も出嵐戸
立居にたさやあいも打

上上 藤塚宗三
りでも念がけの家の室也

上上 中村谷彦
藤塚宗三

▲乃卯之部
上上音 志田彦九郎
引合の歌とて子こに上云

上上 芳波信彦七
▲花車飛之部

上上音 氏中千壽
ひらたのやうか歌とて出嵐

▲若女形之部

上上音 嵐島之部
れくひらふあまの西化の

上上音 中村久年彦
ゆりあまの先歌の歌乃

上上音 沢川市之部
去年中へ名の刀の歌

上上 大和山仙助
ひたのあもあまの歌は

上上 二本末三郎
口説うあまの歌は

上上 中村法三郎
大波と引あまの歌は

藤塚宗三
一 中村久年彦

一 中村法三郎

一 藤塚宗三

一 藤塚宗三

○は西と云ふ一山知せりよ
二のかりり大評判
三ヶ津藝も定

後者改集記 全三冊
附り表紙の仕向とかぞへ

京西他のと概ゆくも若くは傷美
江戸及遠で後ゆき勢方同然に
大坂産本小紋の極平茶氣等
在春三月今午出りや
そ前も出来ぬ疾其頼上

板元

○今年見ると後で運の湖は谷の

氣をこれ後後新集の神と云ふ求ま
ておきたりとの業もあは人の心を
つらとかりてその掛を今日この礼
おと打違ひと云ふ新集も久麻と下
の云くやれまともともおとをの松
は万葉と云ふ後集と云ふありて
撰集と云ふものも松もたかありて
作集と云ふものも松もたかありて
後集と云ふものも松もたかありて
ひとみまぐもまもあつてはして
巖山の松もたかありてはして
おとえんもたかありてはして
の松もたかありてはして

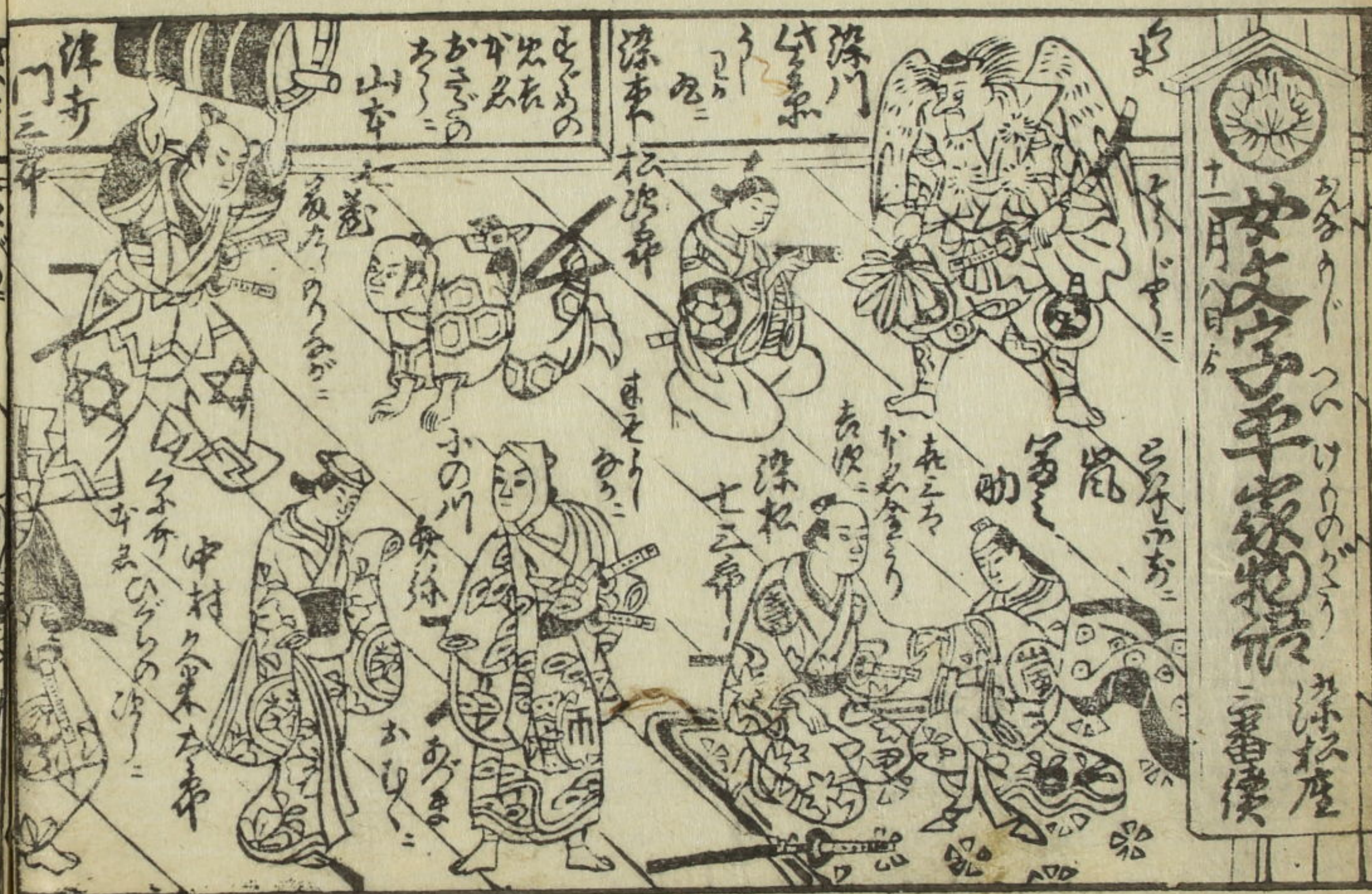


故の国に
 皇曆六年
 五月廿一日
 瑞笑
 作者
 自碑

▲立役之部

極上吉  中村十吉

京都中切堂...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



女
 十
 月
 日
 平
 家
 物
 持
 二
 番
 儀

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a dense, flowing style across two pages. Several words are enclosed in small rectangular boxes, possibly indicating specific names or titles. The script is characteristic of early modern Japanese cursive (sōsho).

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

Handwritten text, possibly a name or title, written in a cursive style.

乃中集よりて [三] かゝる世の老を指
しる事なきに [四] 世の老を指し
て [五] 世の老を指し
[六] 世の老を指し
[七] 世の老を指し
[八] 世の老を指し
[九] 世の老を指し
[十] 世の老を指し

上上吉 壽 傑松七二五郎

及同子身於此及知此子身於此
つぎ [一] 世の老を指し
初 [二] 世の老を指し
多 [三] 世の老を指し
限 [四] 世の老を指し
免 [五] 世の老を指し
下 [六] 世の老を指し
中 [七] 世の老を指し
成 [八] 世の老を指し

其 [九] 世の老を指し
は [十] 世の老を指し
乃 [十一] 世の老を指し
の [十二] 世の老を指し
は [十三] 世の老を指し
乃 [十四] 世の老を指し
の [十五] 世の老を指し
は [十六] 世の老を指し
乃 [十七] 世の老を指し
の [十八] 世の老を指し

上上吉 中村 正五郎

乃 [十九] 世の老を指し
の [二十] 世の老を指し
乃 [二十一] 世の老を指し
の [二十二] 世の老を指し
乃 [二十三] 世の老を指し
の [二十四] 世の老を指し
乃 [二十五] 世の老を指し
の [二十六] 世の老を指し
乃 [二十七] 世の老を指し
の [二十八] 世の老を指し

上上 星 津打門二五郎

出陣するに乃の自儀を記す其に大
 道を尋ひてある處を記す其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大

田城のありきとて云ふ其に大

田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大
 田城のありきとて云ふ其に大

上



小窪川系流

田城のありきとて云ふ其に大

京文

大

此の事は... 今村七三郎... 實地之部

上吉 今村七三郎

中... 今村七三郎... 實地之部

中... 今村七三郎... 實地之部

文を以て撰んたるの如きは云々

上士 藤原山部十七世

其の為教をせむの意なきこと通の事
ひんたたるの事集の事以て世の
知るべしは徳也其の事ありしと
あはれをなき事ありてその事なき
付ともある事ありとの事なき事
あつたりの事なりと云うべしなり
かゝる事なき事なき事なき

上上 藤原家三

其の為年中辨の勅を以て其の事
深敷の事勅を以て其の事
なると云うべしなりと云うべしなり
なりと云うべしなりと云うべしなり
上 崙 中村 冷香

其の為教をせむの意なきこと通の事
ひんたたるの事集の事以て世の
知るべしは徳也其の事ありしと
あはれをなき事ありてその事なき
付ともある事ありとの事なき事
あつたりの事なりと云うべしなり
かゝる事なき事なき事なき

▲乃亦之部

上上吉 志田九郎

其の為教をせむの意なきこと通の事
ひんたたるの事集の事以て世の
知るべしは徳也其の事ありしと
あはれをなき事ありてその事なき
付ともある事ありとの事なき事
あつたりの事なりと云うべしなり
かゝる事なき事なき事なき

言のふすまのつゆに平春は後為すは極也
ガレゆふたつづの極極のそと極極

上上吉 申村の年々

幸田 雑草のたのみの物年々物年々

高田 寛地をこもる川は津村に初りも

今今年と物物津村の珍重別物極

之及ふたつづのたのみの後物津村

小高村は極中へこそ年々へ物津村

此の極極中へこそ年々へ物津村

左及ふたつづのたのみの後物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

まりのつづに本物津村の極極

ひの極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

お勤め極極中へこそ年々へ物津村

120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200

201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300

ひねりたるはまむらじのむらじのむらじのむらじ
もむらじのむらじのむらじのむらじのむらじ
むらじのむらじのむらじのむらじのむらじ
むらじのむらじのむらじのむらじのむらじ

上



素直谷松三郎

寛文六年
子心月吉日
素直河野松三郎三郎
八幡下や八幡宮の板

寛文六年

子心月吉日

素直河野松三郎三郎

八幡下や八幡宮の板

後者後撰文 蘇もま

大坂巻目録

初巻のむらじ

秋万葉の子孫のむらじ

備前守のむらじのむらじのむらじ

と平家ゆゑのむらじのむらじ

比方ゆゑのむらじのむらじ

うのむらじのむらじのむらじ

月の朝とむらじ

実波のむらじ

ひら みの 海なる 曲 髪つ

あま とき てる てる の の こと

たて 板み あり 際 の ころ 髪つ

よの の せ 漬 れ える

ひら みの の せ の こと

あま とき てる

おの の こと 思入 退法

は 合 ふ 大 漆 の

らん ぶ の こと

大坂の三長歌後者同歌
長代後長歌者重門の長中坂長を三節
長代大長歌者重門の長中坂長を三節
長代長歌者重門の長中坂長大長

▲五波之部

○大長歌法合ふ者重門の長中坂

上吉 重川平九郎 言え

上吉 中山彰九郎 言え

上吉 市川重忠 言え

上吉 中山文七 言え

上吉 坂本重三郎 言え

上吉 三株大次郎 言え

歌 長上吉 言え

上書

竹中長長 大長

上書

市井川長常 長常

上書

三輪三三 三三

上書

風友十郎 長友

上書

中村長常 長常

上書

海一長常 長常

上書

沢村助十郎 長助

上書

深山常十郎 長常

上書

長一長常 長常

上書

風三又常 長三

上書

野下長常 長常

上書

半為八十八 長為

上書

ひくくく

上書

立後 上極松助助 大上長本原長助 大

上書

實為之部 風一長常 長常

上書

中村長常 長常

上書

長川常十郎 長常

上書

乃一長常 長常

上書

桐山長治 長治

上書

三輪三三 長三

上書

歌波之部 月一長常 長常

上書

坂東長常 長常

上書

山下長常 長常

上上

友川十帝共清 大書

上上

市川宗三帝 大書

上上

三谷川孫平次 大書

上上

山ノ下 大書

上上

上中村俊彦 大書

上上

上中川孫三帝 大書

上上

上市川千益 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

上上

上市川孫三帝 大書

▲乃和之部

大松百助 大書

野ノ下 大書

嵐野三帝 大書

野ノ下 大書

平松万助 大書

▲乃和之部

坂田丈十帝 大書

野ノ下 大書

泉平三帝 大書

山科新三帝 大書

▲乃和之部

嵐野三帝 大書

野ノ下 大書

芳沢橋三助 大書

野ノ下 大書

清尾元又帝 大書

野ノ下 大書

三桑浪江 大書

野ノ下 大書

岩田深松 大書

野ノ下 大書

市川大書 大書

野ノ下 大書

市川大書 大書

野ノ下 大書

大書

上

市川新之部 是元

上

山下六三郎 是元

上

嵐 三太夫門 是元

上

市川新之部 是元

上

山下宇原太 是元

上

たのしむ 是元

上

山下新之部 是元

上

花桐 是元

上

生松 是元

上

嵐 小竹 是元

▲是元新之部

一松竹 是元 一中山 是元

一芳次 是元 一中村 是元

一坂東 是元 一松竹 是元

一嵐 是元 一山下 是元

一山中 是元 一嵐 是元

一乃山 是元 一乃山 是元

一乃山 是元 一乃山 是元

一乃山 是元 一乃山 是元

一乃山 是元 一乃山 是元

一乃山 是元 一乃山 是元

一乃山 是元 一乃山 是元

○いふことある一はせやと云

色目不講のあはれなるを撰りて

髪あてのあはれなるを撰りて

中将臣信系誌 全部五巻

兼 皇太子の御あての御書

御書のあはれなるを撰りて

今治の御書に御あての御書

御書のあはれなるを撰りて

御伽太平記 全部五巻

兼 洗海の御書に御あての御書

兼 還幸の御書に御あての御書

在比二色大正二月廿五日

甲のそききしん末の御書

板元

○信濃屋のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

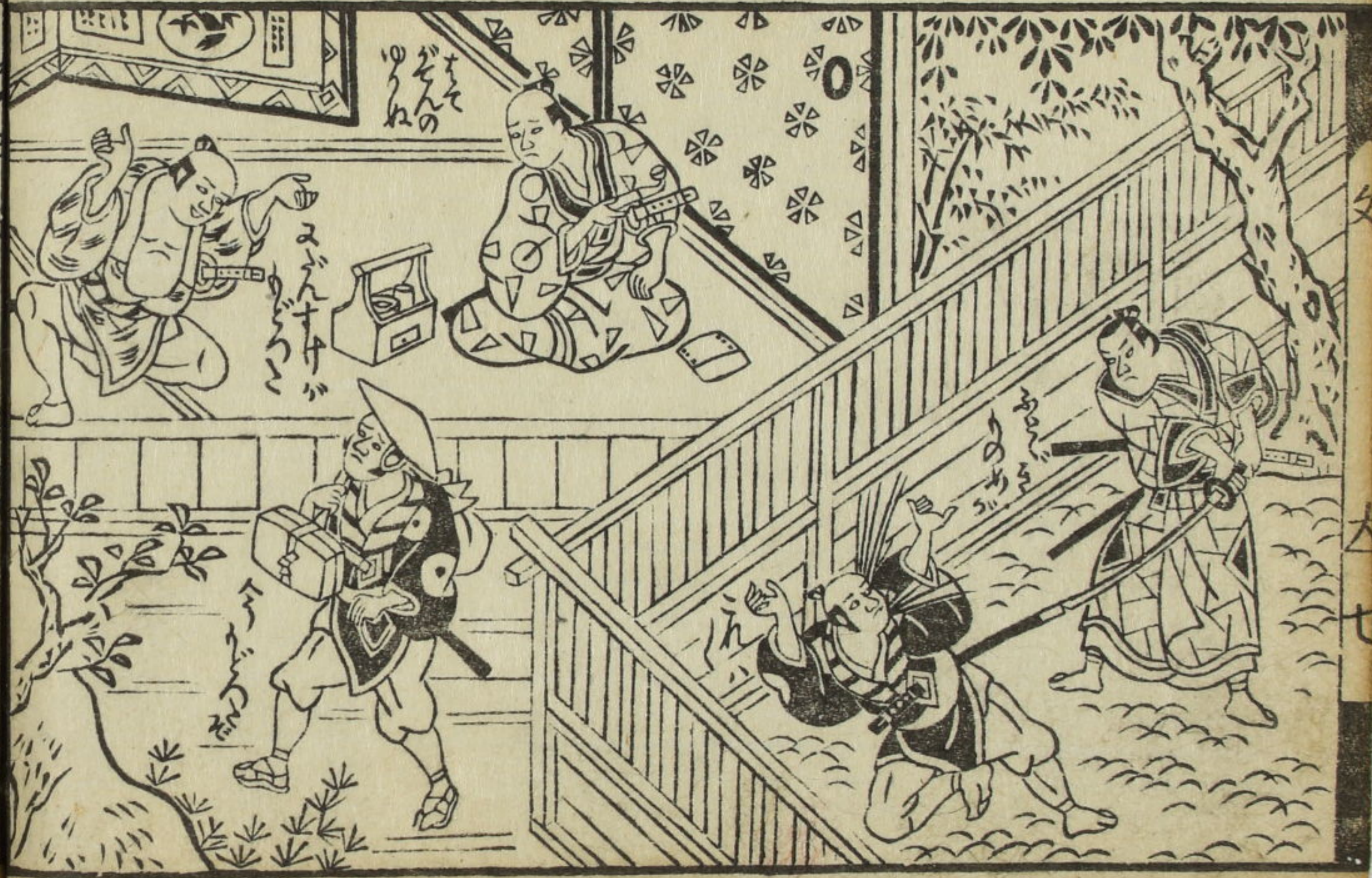
兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて

兼 御書のあはれなるを撰りて



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a continuous passage of text, possibly a letter or a record, with some words written in a slightly larger or bolder hand than others, possibly indicating emphasis or specific terms. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a continuous passage of text, possibly a letter or a record, with some words written in a slightly larger or bolder hand than others, possibly indicating emphasis or specific terms. The script is dense and fills most of the page.

五言絶句一首
白雲飛去不知處
綠水自流何處去
日暮蒼山遠
天寒白雲生
柴門聞犬吠
風雪夜歸人
遠上寒山石徑斜
白雲生處有人家
停車坐愛楓林晚
坐看牽牛織女星
遠上寒山石徑斜
白雲生處有人家
停車坐愛楓林晚
坐看牽牛織女星

實曆六年

子正月吉日 作者 瑞英

▲五言之部

古書 及川平九郎 書

兼傳 打まきうましくまきうましく
ひそかにえくまにえくまにえくまに
おんくまにえくまにえくまにえくまに
奉わらぬ日長き事なり
不為幸ぬ日は打物あり
ふゆきうましくまきうましく
おんくまにえくまにえくまにえくまに
ひそかにえくまにえくまにえくまに
おんくまにえくまにえくまにえくまに
ふゆきうましくまきうましく
おんくまにえくまにえくまにえくまに

おて出動及あるは奉りし中一

西の津交りし中一

目録の抄があらむは

改て抄を抄りたまふ

ての事と大御事

付録の事と秋の非人

と六交の付りや

の付りや抄りたまふ

日長り御事

の事と抄りたまふ

海ありしは

相虎不書

御りたまふ

ありしは

形と御事

御事と抄りたまふ

公儀と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

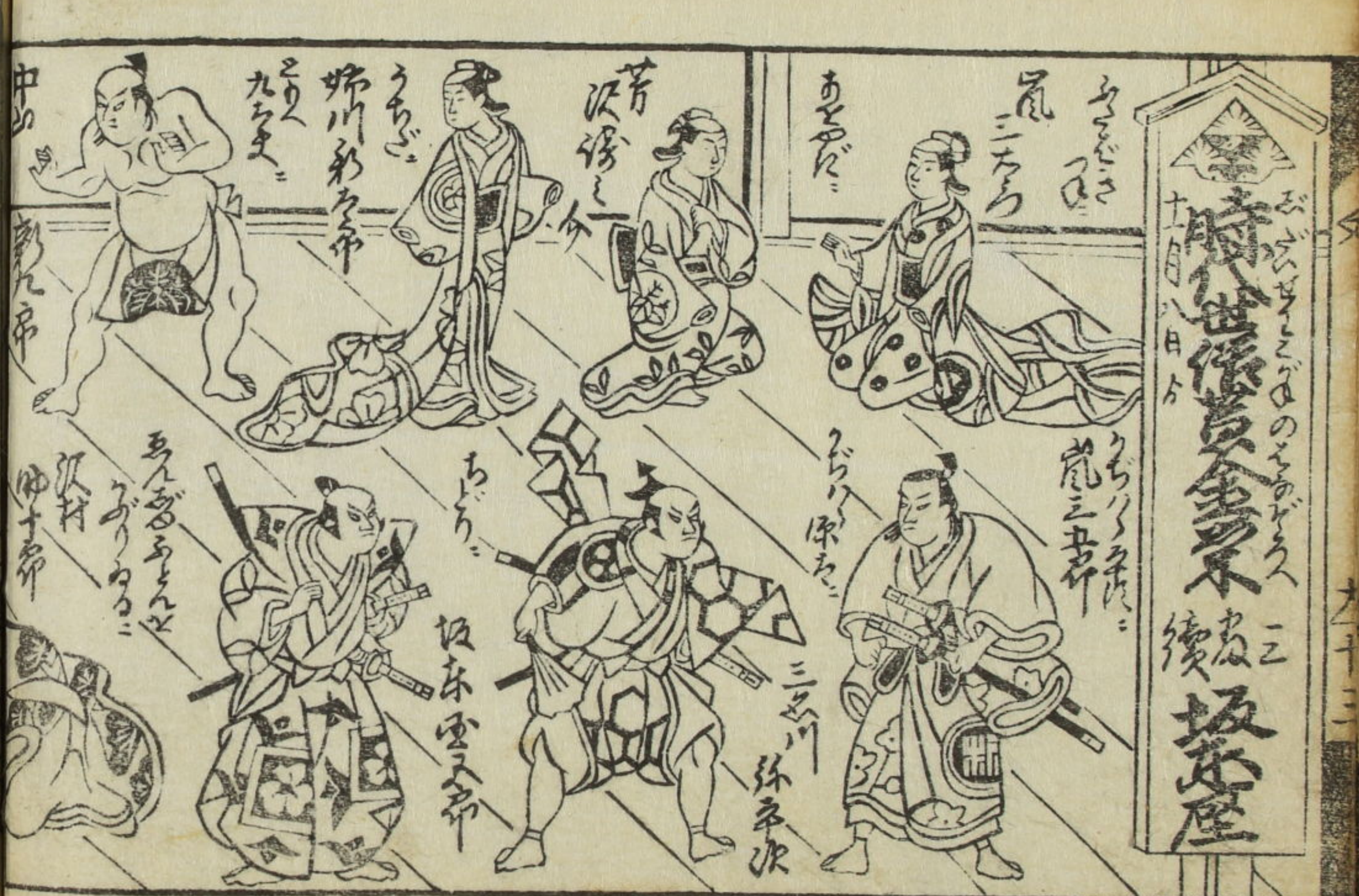
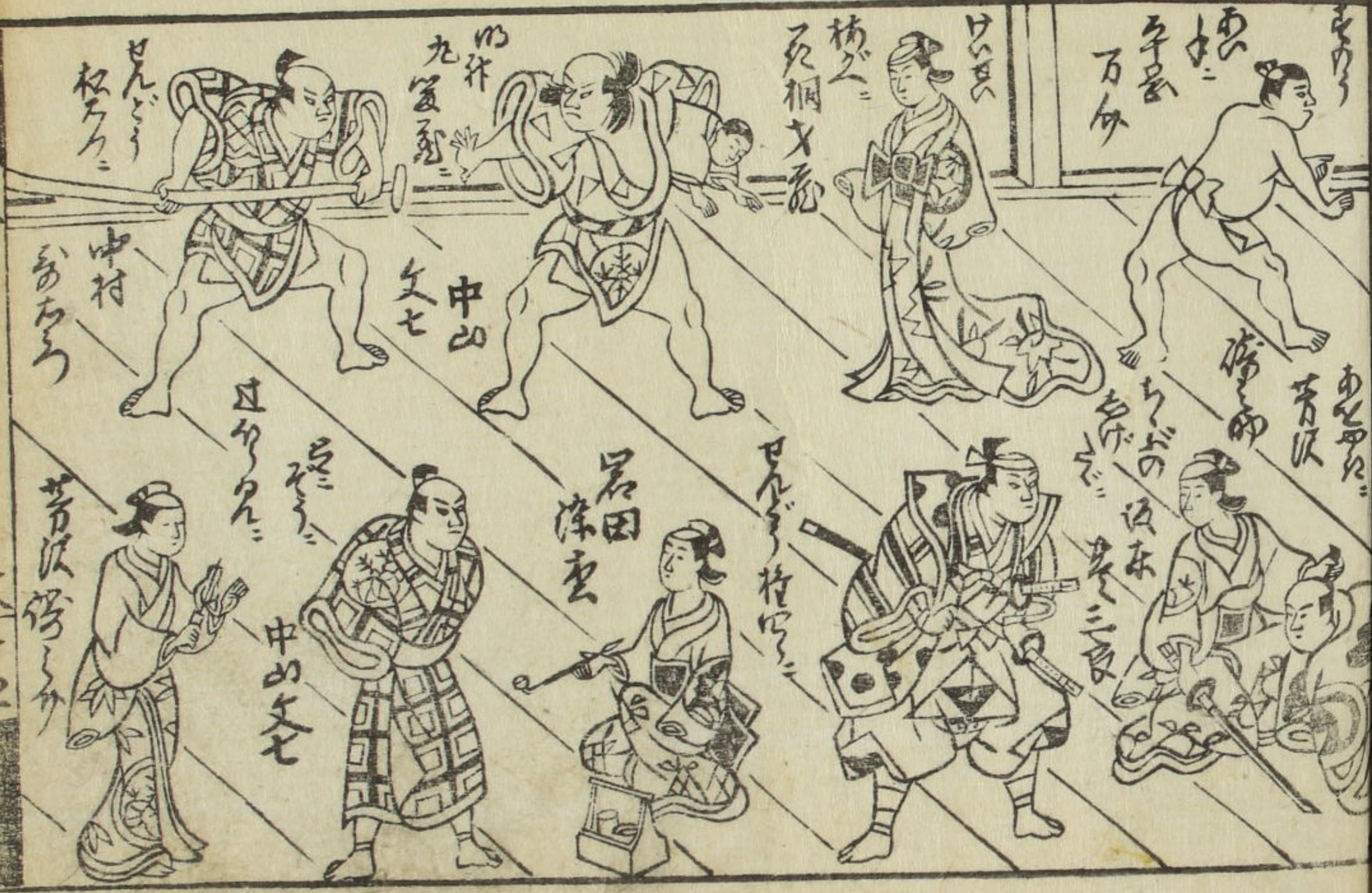
御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

御事と抄りたまふ

双方は... 追出... 大劫... 根... の... と... 方... 上吉 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...

蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...
 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七... 蠟 中七...



時世傳書
 續 坂屋

此後故未の終でござんたを奉るは穉
者疎の心方よりけり傳言をてしと
志方より終るをた上深きし一書

氣の懸念をもつたはけりとも
くはたはた目家よりけりしむも
ぬ一書

及ぶしはたの終る終りしと終る
女一書

かたは終るし終る終るし終る
女終るし終るし終るし終る

終る終るし終る終るし終る
終る終るし終る終るし終る

終る終るし終る終るし終る
終る終るし終る終るし終る

終る終るし終る終るし終る
終る終るし終る終るし終る

終る終るし終る終るし終る
終る終るし終る終るし終る

終る終るし終る終るし終る
終る終るし終る終るし終る

終る終るし終る終るし終る
終る終るし終る終るし終る

終る終るし終る終るし終る
終る終るし終る終るし終る

といふ事なりと云ふ事 [] といふ事なり []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []

上上言 [] 二辨大入師 [] 本意

といふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []
 と云ふ事なりと云ふ事 [] といふ事なりと云ふ事 []

源平扇合番 後 柳屋
十月十日

保のり
尾三郎

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ



あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ



大

大



十二月一日
 三番後
 柳川大蔵

上土田 坂東八景 其九

昔人の歌に坂東の景を詠ふ事
云々後三景は行々云々
是迄四景と詠ふ事
云々後三景は行々云々
昔人の歌に坂東の景を詠ふ事
云々後三景は行々云々
是迄四景と詠ふ事
云々後三景は行々云々

下土田 坂東八景 其八

昔人の歌に坂東の景を詠ふ事
云々後三景は行々云々
是迄四景と詠ふ事
云々後三景は行々云々
昔人の歌に坂東の景を詠ふ事
云々後三景は行々云々
是迄四景と詠ふ事
云々後三景は行々云々

上上 〓 山下改新 三股丸

善い人の歌をよき世に流しけり
まじりてよき世に流しけり

公高の歌をよき世に流しけり
よき世に流しけり

よき世に流しけり
よき世に流しけり

上上 〓 山下改新 三股丸

善い人の歌をよき世に流しけり
まじりてよき世に流しけり

公高の歌をよき世に流しけり
よき世に流しけり

よき世に流しけり
よき世に流しけり

上上 〓 山下改新 三股丸

善い人の歌をよき世に流しけり
まじりてよき世に流しけり

公高の歌をよき世に流しけり
よき世に流しけり

よき世に流しけり
よき世に流しけり

上上 〓 山下改新 三股丸

善い人の歌をよき世に流しけり
まじりてよき世に流しけり

公高の歌をよき世に流しけり
よき世に流しけり

よき世に流しけり
よき世に流しけり

る後の口より言ふ事未だ知ら

上上 **◎** 山科新又神 大書

◎ 山科新又神 大書 今迄の御事

と云ふ事ありて

▲美形之部

上言 叶風 小 六 おとせ

◎ 昔の歌三首ありて

舞と云ふ御事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

と云ふ事ありて

長考の人の歌は家系花前はひるは松平
 万葉集の面々下は西守の口を記しては
 三葉歌集のうらなまよふるを西守と
 してはひるは松平の家の系を記しては
 長考の人の歌は家系花前はひるは松平
 万葉集の面々下は西守の口を記しては
 三葉歌集のうらなまよふるを西守と
 してはひるは松平の家の系を記しては
 長考の人の歌は家系花前はひるは松平
 万葉集の面々下は西守の口を記しては
 三葉歌集のうらなまよふるを西守と
 してはひるは松平の家の系を記しては

上上吉 三葉歌集のうらなまよふるを西守と

長考の人の歌は家系花前はひるは松平
 万葉集の面々下は西守の口を記しては
 三葉歌集のうらなまよふるを西守と
 してはひるは松平の家の系を記しては
 長考の人の歌は家系花前はひるは松平
 万葉集の面々下は西守の口を記しては
 三葉歌集のうらなまよふるを西守と
 してはひるは松平の家の系を記しては
 長考の人の歌は家系花前はひるは松平
 万葉集の面々下は西守の口を記しては
 三葉歌集のうらなまよふるを西守と
 してはひるは松平の家の系を記しては

上上吉 若田源松

吉樹の世に於ては... 柳の葉に... 竹の葉に... 木の葉に... 草の葉に...

上上 同 吹流川宗者

書に於ては... 六世... 七世... 八世... 九世... 十世...

上上 山下宗者

書に於ては... 一... 二... 三... 四... 五...

おの... 中... 外... 内... 上... 下... 左... 右... 前... 後...

上上 山下宗者

この本は竹生堂の撰本に於ては、
 大正後方の抄本に引くものあり、
 勅書に引く抄本に引くものあり、
 忠臣蔵の巻に引くものあり、
 是れ美濃抄本と云ふものあり、
 の類に引くものあり、
 上上 ① 辰桐 方彦 忠臣蔵
 上上 ② 吉松 傍野 忠臣蔵
 上上 ③ 生持 全長 忠臣蔵
 ④ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑤ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑥ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑦ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑧ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑨ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑩ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑪ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑫ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑬ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑭ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑮ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑯ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑰ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑱ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑲ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑳ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉑ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉒ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉓ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉔ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉕ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉖ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉗ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉘ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉙ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉚ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉛ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉜ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉝ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉞ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉟ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊱ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊲ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊳ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊴ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊵ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊶ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊷ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊸ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊹ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊺ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊻ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊼ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊽ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊾ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊿ 吉松 傍野 忠臣蔵

竹生堂の撰本に於ては、
 上 ① 嵐 小持 忠臣蔵
 上 ② 桐野 吉松 忠臣蔵
 ③ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ④ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑤ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑥ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑦ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑧ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑨ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑩ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑪ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑫ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑬ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑭ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑮ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑯ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑰ 生持 全長 忠臣蔵
 ⑱ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ⑲ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ⑳ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉑ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉒ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉓ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉔ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉕ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉖ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉗ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉘ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉙ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉚ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉛ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉜ 生持 全長 忠臣蔵
 ㉝ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㉞ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㉟ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊱ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊲ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊳ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊴ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊵ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊶ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊷ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊸ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊹ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊺ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊻ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊼ 生持 全長 忠臣蔵
 ㊽ 辰桐 方彦 忠臣蔵
 ㊾ 吉松 傍野 忠臣蔵
 ㊿ 生持 全長 忠臣蔵

尾流が整胃の及ぶる

具負のつらうらうらふ

わたり流の知く老の序

吐て氣味のふく大評判を

武彦野ふねとのと

晴のね盤

ての輝く海その私盤を

愚人と
さうらげ

中長の

鉄立

中村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

市村勅三郎

上上言 九 富沢辰十席 中村

上上言 中大谷廣次 中村

上上言 右 松山三十席 中村

上上言 右 桐の谷五十席 中村

上上言 中 山中平九席 中村

上上言 右 桐の谷五十席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

上上言 中 市川八百席 中村

上上言 右 市川八百席 中村

かきりと俸割がはてしなくある

赤くぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

かろがぬすの美子の殺もあつた

上上 丑 九 沢村在十郎 妻 氏

之余のりもろへぬひりぢけ

上上 吉 中 益谷又九郎 日 氏

能きうこびた町とつとん

上上 右 中 徳之南彦 日 氏

五波ふらあらはせ入ひりこも

上上 九 文 徳十郎 日 氏

あてともあひりうらうら

上上 吉 中 中 徳助九郎 日 氏

後うもてとてとての換ふれ

上上 右 友 村中十郎 日 氏

ぶさふらう芳所てとてあふ

上上 九 大 谷 忠彦 日 氏

たふ入りてふ出世とつあひ

上上 右 友 谷又彦 日 氏

又くてもその日あふ

上上 丑 中 市川 勘十郎 日 氏

又くてもその日あふ

上上 右 中 市川 七郎 日 氏

又くてもその日あふ

上中 村 友 中 上 大 佐 力 日 氏

又くてもその日あふ

上中 村 友 中 上 中 徳 助 六 日 氏

又くてもその日あふ

上上 村 友 中 上 上 松 中 日 氏

又くてもその日あふ

上上 吉 中 市 身 文 良 日 氏

又くてもその日あふ

上上 九 市 川 久 彦 日 氏

又くてもその日あふ

上上 吉 中 市 川 久 彦 日 氏

又くてもその日あふ

上上 吉 中 市 川 久 彦 日 氏

又くてもその日あふ

上上 吉 中 市 川 久 彦 日 氏

又くてもその日あふ

上上 吉 中 市 川 久 彦 日 氏

又くてもその日あふ

上上 飯島又高 高尾

▲若女形之部

上上書无 嵐和守野 高尾

布正一の藝名なりしを云ふ

極上上吉中 浪川兼次郎 高尾

ひさしのもむもそまき 高尾

上上 右 吾妻直友 高尾

久の女ありて見たるを云ふ

上上 小沢川常世 高尾

友和之の長らういんどのを云ふ

極上上吉 中村高十郎 高尾

兄弟で女史の役なりし中

上上 萩野八重 高尾

女史の年でいんどのを云ふ

上上 左 沢村一右衛門 高尾

あつちの藝名なりしを云ふ

上上吉 中 中村彦代三郎 高尾

あつちの藝名なりしを云ふ

上上 萩野小次郎 高尾

上中 浪川千代 高尾

上右 芳沢又市 中尾

上左 神楽三輪 高尾

上中 三条徳右衛門 高尾

上右 玉沢守之助 高尾

上上書 依能川市松 高尾

この市ありしを云ふ

▲若女形之部

上左 中村一八 高尾

上中 萩野大友 高尾

上右 萩小富士 高尾

▲子役之部

上上 市村長彦 高尾

上上 浪川長次 高尾

上上 浪田初次郎 高尾

上上 中村徳次郎 高尾

上上 松本三郎 高尾

上上 松本三郎 高尾

上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上
 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右
 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠
 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松
 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市
 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠 鼠
 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松 松
 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂
 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
 吾 吾 吾 吾 吾 吾 吾 吾 吾 吾 吾 吾 吾
 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾 尾
 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂
 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂
 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂 坂

▲中村村及び子分

一三原初太郎 一三原小太郎
 一三原中太郎 一三原次太郎

一甲村太郎 一甲村次郎
 一甲村三郎 一甲村四郎
 一鼠合太郎 一鼠合次郎
 一三原川合太郎 一三原川合次郎
 一松平太郎 一松平次郎
 一松平三郎 一松平四郎
 一松平五郎 一松平六郎
 一松平七郎 一松平八郎
 一松平九郎 一松平十郎
 一松平十一郎 一松平十二郎

▲市村村及び子分

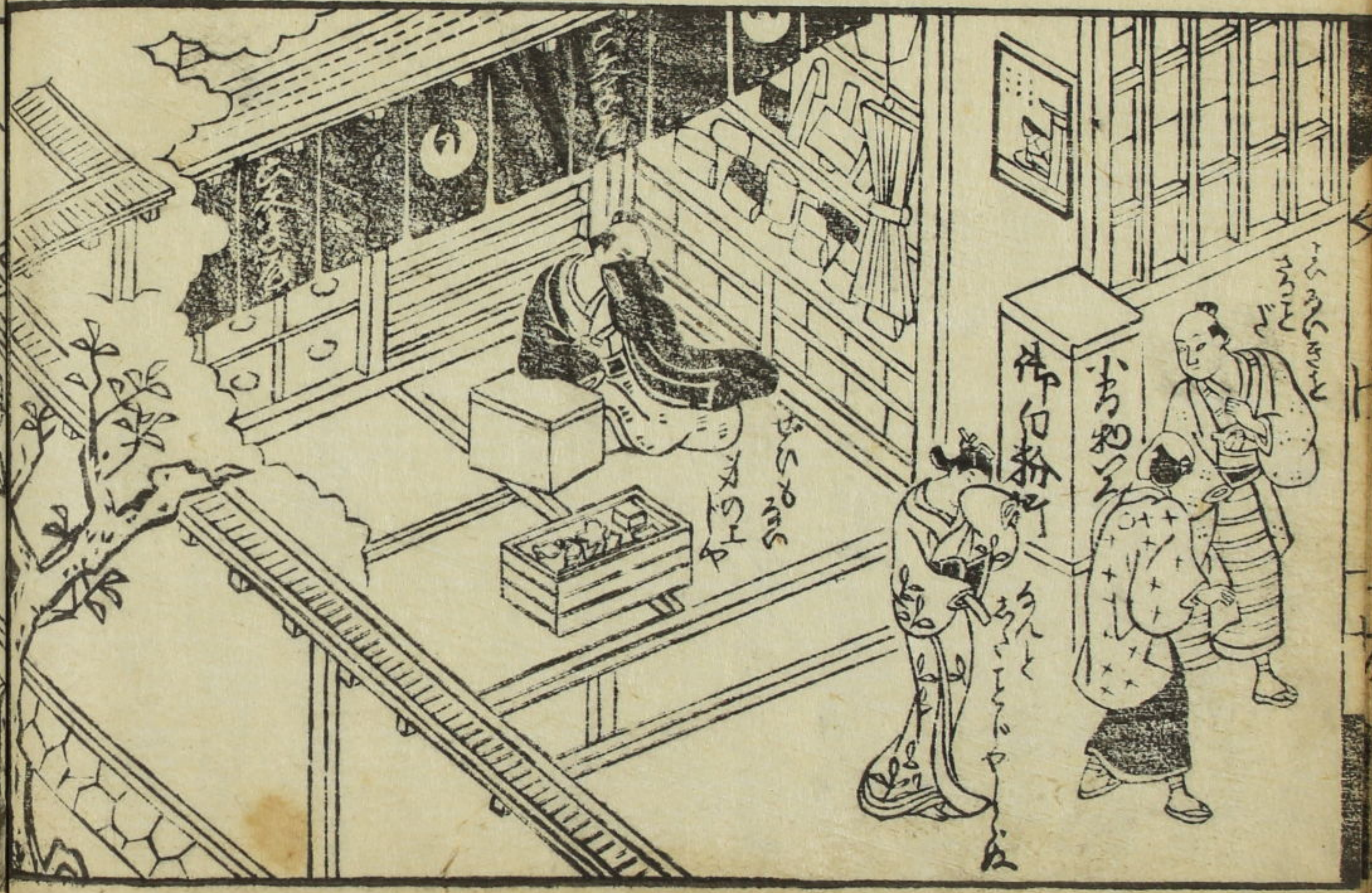
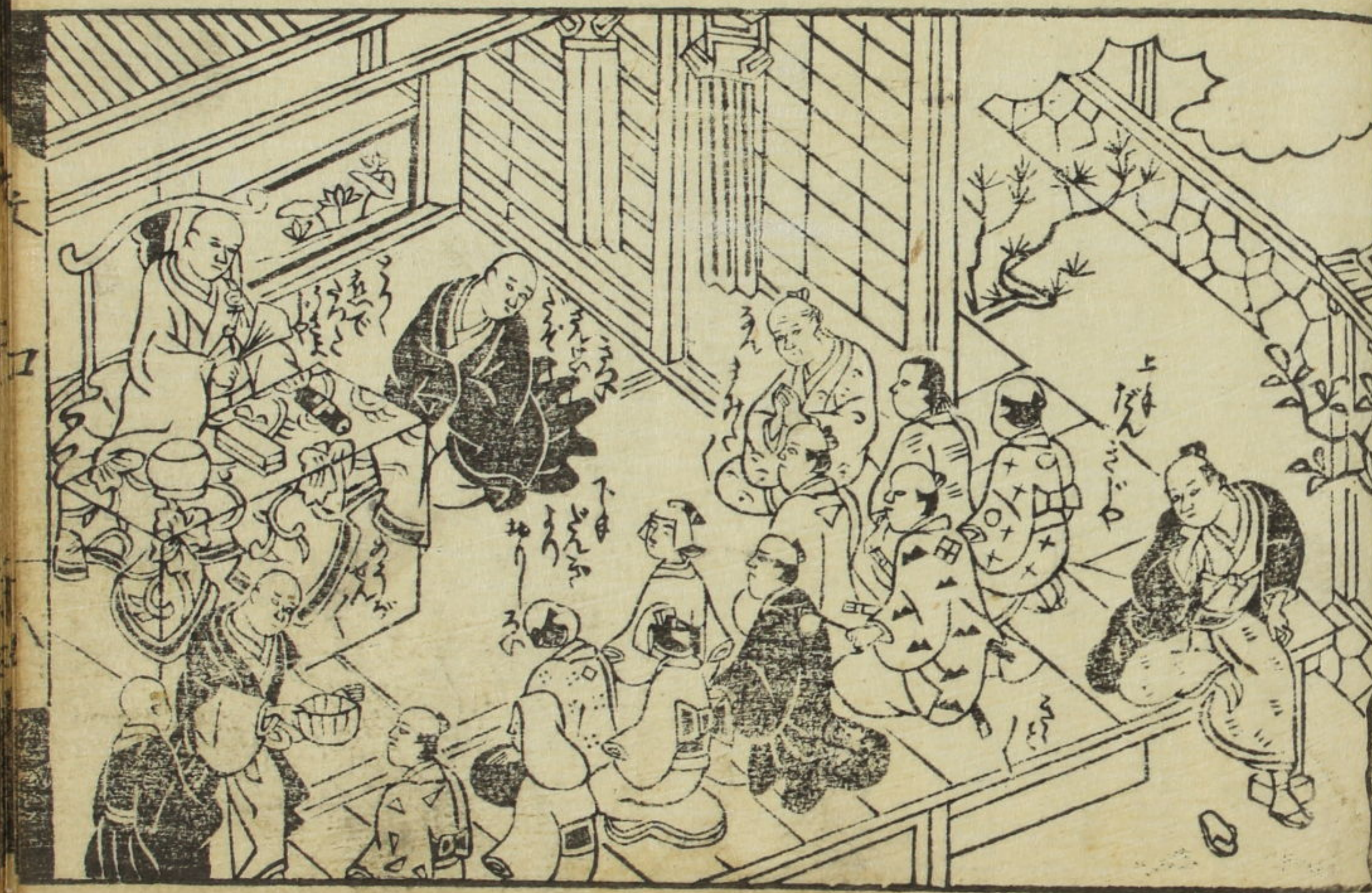
一市村太郎 一市村次郎
 一市村三郎 一市村四郎
 一市村五郎 一市村六郎
 一市村七郎 一市村八郎
 一市村九郎 一市村十郎
 一市村十一郎 一市村十二郎
 一市村十三郎 一市村十四郎
 一市村十五郎 一市村十六郎
 一市村十七郎 一市村十八郎
 一市村十九郎 一市村二十郎

▲桑田村及び子分

一桑田太郎 一桑田次郎
 一桑田三郎 一桑田四郎
 一桑田五郎 一桑田六郎

Wiederum ist es ein Mann der
in der Welt umhergeht und
das Wort Gottes predigt und
den Menschen das Leben zeigt
er predigt das Evangelium
und er predigt die Botschaft
des Reiches Gottes und er
predigt die Botschaft der
Gnade Gottes und er predigt
die Botschaft der Liebe Gottes
und er predigt die Botschaft
der Hoffnung Gottes und er
predigt die Botschaft der
Glorie Gottes und er predigt
die Botschaft der Herrlichkeit
Gottes und er predigt die
Botschaft der Majestät Gottes
und er predigt die Botschaft
der Macht Gottes und er
predigt die Botschaft der
Weisheit Gottes und er
predigt die Botschaft der
Güte Gottes und er predigt
die Botschaft der Güte Gottes
und er predigt die Botschaft
der Güte Gottes und er
predigt die Botschaft der
Güte Gottes und er predigt
die Botschaft der Güte Gottes

Das ist der Mann der
in der Welt umhergeht und
das Wort Gottes predigt und
den Menschen das Leben zeigt
er predigt das Evangelium
und er predigt die Botschaft
des Reiches Gottes und er
predigt die Botschaft der
Gnade Gottes und er predigt
die Botschaft der Liebe Gottes
und er predigt die Botschaft
der Hoffnung Gottes und er
predigt die Botschaft der
Glorie Gottes und er predigt
die Botschaft der Herrlichkeit
Gottes und er predigt die
Botschaft der Majestät Gottes
und er predigt die Botschaft
der Macht Gottes und er
predigt die Botschaft der
Weisheit Gottes und er
predigt die Botschaft der
Güte Gottes und er predigt
die Botschaft der Güte Gottes
und er predigt die Botschaft
der Güte Gottes und er
predigt die Botschaft der
Güte Gottes und er predigt
die Botschaft der Güte Gottes

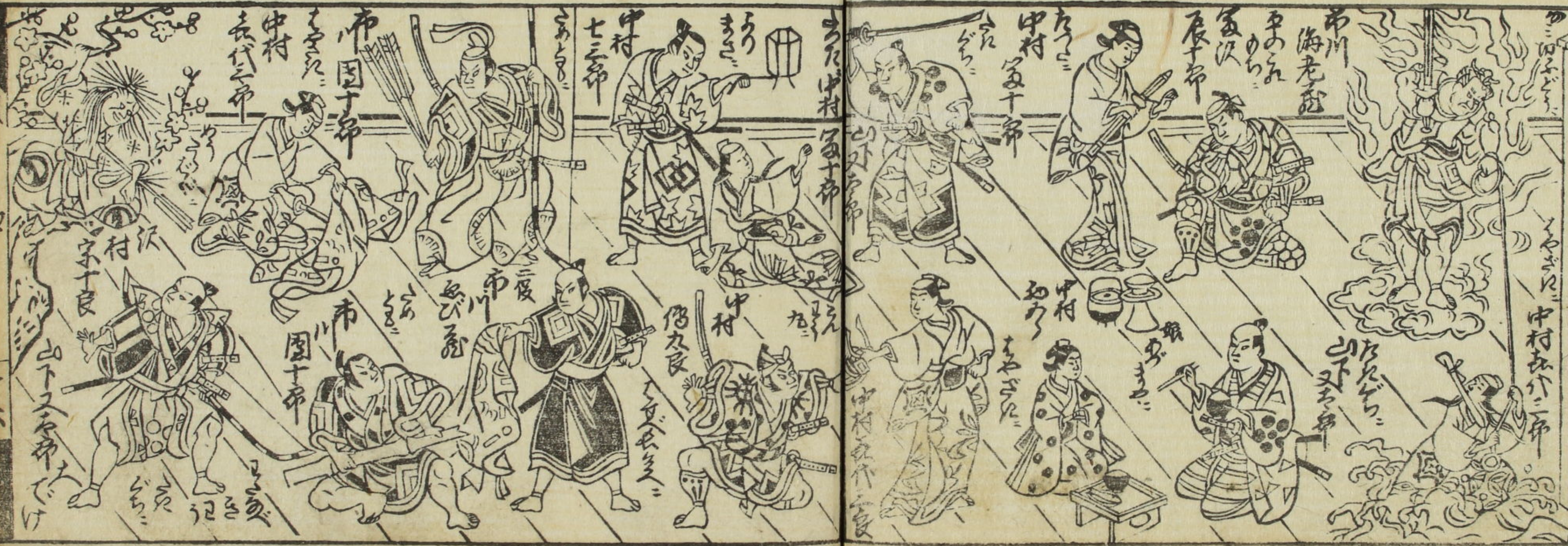


由是して御覽之。乃若其意を以て之。
 初とく御覽之。乃若其意を以て之。

真極正言 (真極正言) 初とく御覽之。乃若其意を以て之。

其極正言法... (transcription of main text on the right page)
 ...御覽之。乃若其意を以て之。

此て... (transcription of main text on the left page)
 ...御覽之。乃若其意を以て之。



あつたてのふん
大目録
源氏
四番
盛
中村外三郎

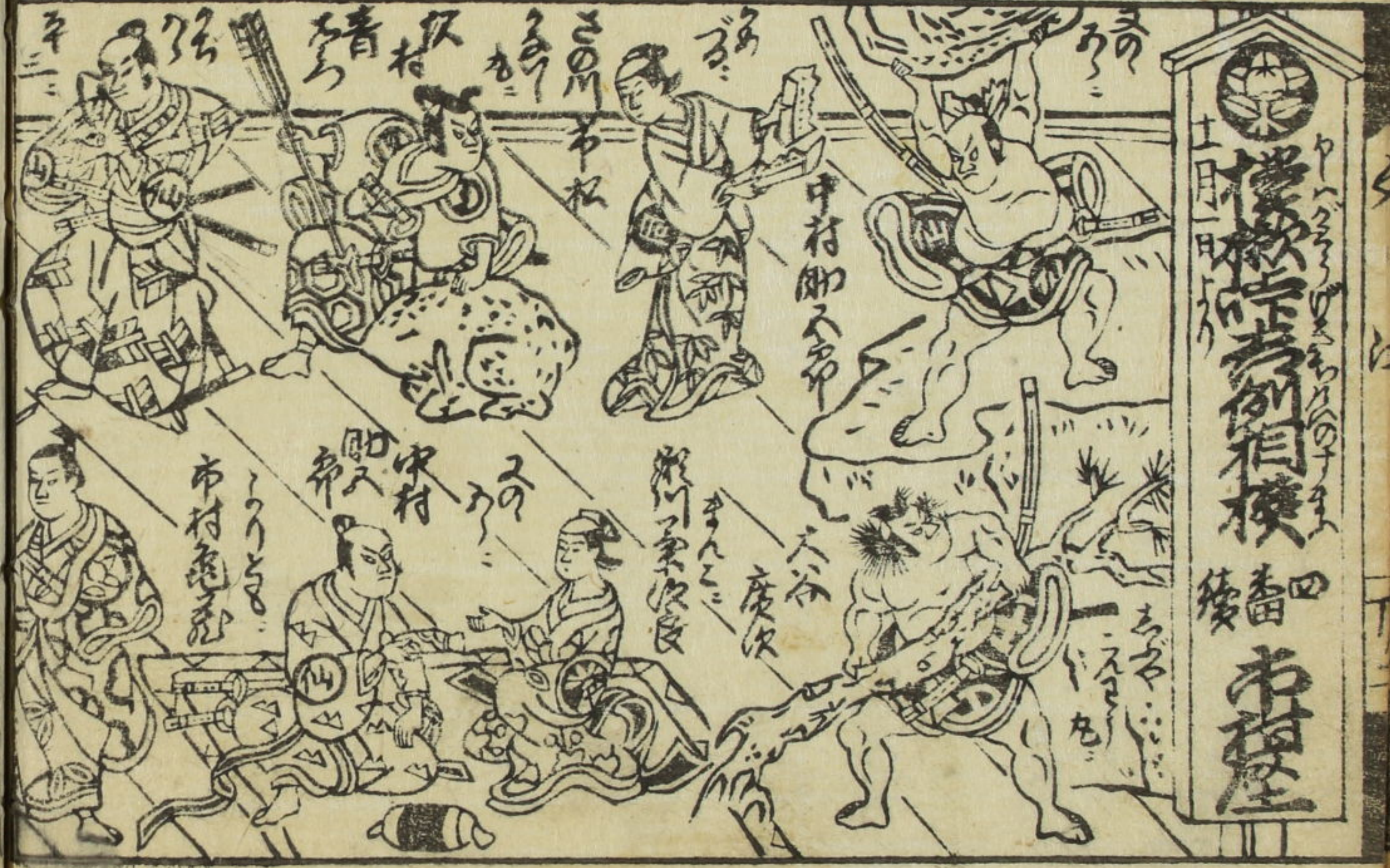
中村
長代三郎
山下一三郎
宗十郎
中村
長代三郎

中村
長代三郎
中村
長代三郎
中村
長代三郎

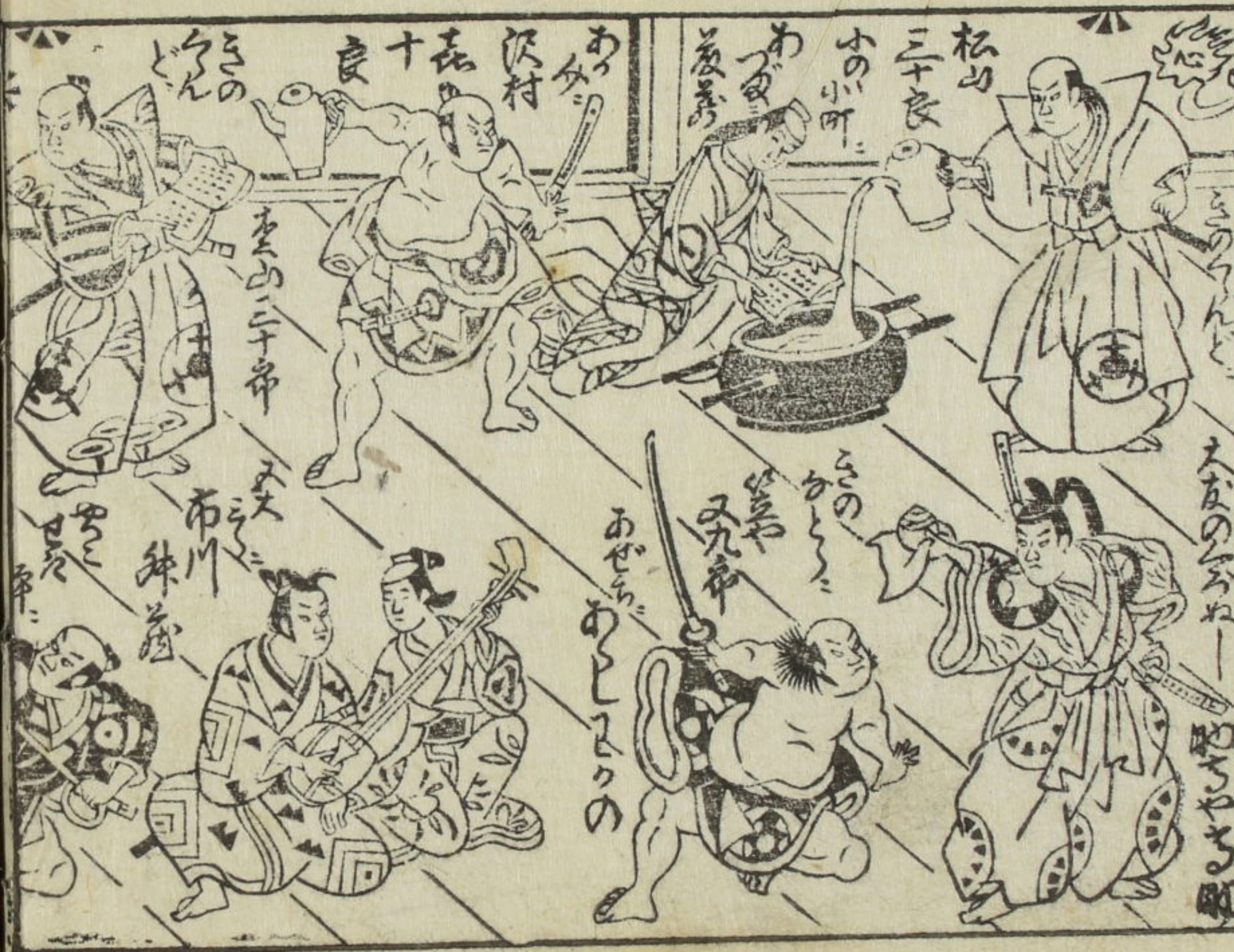
中村
長代三郎
中村
長代三郎
中村
長代三郎

中村
長代三郎
中村
長代三郎
中村
長代三郎

中村
長代三郎
中村
長代三郎
中村
長代三郎




 徳川幕府御用
 十月一日
 後番 齋屋



松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日

松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日

松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日

松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日



松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日

松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日

松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日

松山 三子
 小の川
 後番
 徳川幕府御用
 十月一日

六
 工
 三
 十

江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...
 江戸の町に...

上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...

上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...
 上書 申付勅れ事...

かきみけりありきりたりたりと云ふ

上吉 ① 沢村村十郎一書

① 沢村村十郎一書 書に
ありきりたりたりと云ふ
の物もまたきりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
二つありきりたりと云ふ
このふたつはけりたりと云ふ
後にはけりたりと云ふ
がりのありきりたりと云ふ
ゆりたりと云ふと云ふ
新書にけりたりと云ふ
のありきりたりと云ふ
ありきりたりと云ふ
ありきりたりと云ふ

万葉集にありきりたりと云ふ

上上 ② 中村三甫一書

② 中村三甫一書 書に
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ

上上吉 ③ 市川初十郎一書

③ 市川初十郎一書 書に
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ
ありきりたりたりと云ふ

又玉璽を以てたのた金の、銀のりて
上上 **巴** 文勝十正部 一 所村丸
後管 上上とともたは後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸

教の待てを以て各に玉璽及待を以て十
 五正部 一 文勝十正部 一 所村丸
 目録不考す、今考ふる別々本の
 秋夜記中、玉璽十正部、一 所村丸
 ▲道外之邪

上吉 **山** 風 音 八 多村丸

所村丸 玉璽の所村丸、後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸
品 所村丸は後管の所村丸

のひは海を渡りて其の國に到りて
其の國の民を以て其の國に治す
言ふに夜は其の國に治す
其の國の民を以て其の國に治す
其の國の民を以て其の國に治す

上上 ④ 其書及首 其書


其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書


かゝる國を以て其の國に治す
其の國の民を以て其の國に治す
其の國の民を以て其の國に治す
其の國の民を以て其の國に治す
其の國の民を以て其の國に治す

上上 ④ 小水川 其書 其書


其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書
其書 其書 其書 其書 其書


可也其子嗣... (text continues) ...

上吉  市村 忠 彦 忠 彦

 市村 忠 彦 忠 彦

其後... (text continues) ...

上上吉  市村 忠 彦 忠 彦

 市村 忠 彦 忠 彦

乃て其の書卷の字は後其の心と云ふ
りて其の字は其の心と云ふ
の字は其の心と云ふ
と云ふ云々

乃て其の書卷の字は後其の心と云ふ
りて其の字は其の心と云ふ
の字は其の心と云ふ
と云ふ云々

寶曆六年

ひのこの
あ乃

正月吉日

乃て其の書卷の字は後其の心と云ふ
りて其の字は其の心と云ふ
の字は其の心と云ふ
と云ふ云々

